

VLBI 懇談会 2024 年度 総会資料

[審議事項]

1. 2024 年度会計報告および会計監査報告（資料 1）

2023 年度 VLBI 懇談会シンポジウム（新潟大学）は、対面およびリモートによるハイブリッド形式で開催された。4 回の役員会（2024 年 1 月, 4 月, 7 月, 12 月）は、いずれもリモート開催だったため、役員旅費は発生せず、執行額はゼロとなった。2024 年度シンポジウム（高山市民文化会館: 岐阜大学）も、対面とリモートによるハイブリッド形式で実施した。天文台研究集会助成採択のため、会場費などの支出はない。資料 1 の通り、2024 年度の会計監査の結果を報告する。

2. 2025 年度の活動方針

(1) 2024－2025 VLBI 懇談会 役員構成

会長： 小林秀行

事務局長および事務局： 佐野栄俊（事務局：岐阜大学）

全国幹事： 今井裕, 岳藤一宏, 赤堀卓也, 小山翔子, 藤澤健太

機関幹事： 関戸衛（情報通信研究機構）	新沼浩太郎（山口大学）
青山雄一（国立極地研究所）	寺家孝明（国立天文台）
米倉覚則（茨城大学）	本田昌樹*1, 石垣真史*2（国土地理院）
中川亜紀治（鹿児島大学）	土居明広（JAXA/宇宙科学研究本部）
佐野栄俊（岐阜大学）	小川英夫（大阪公立大学）
三澤浩昭（東北大学）	大木愛花（学生幹事）

会計監査員：中川亜紀治

*1: 2024 年 4 月 10 日まで

*2: 2024 年 4 月 11 日以降

(2) 2023 年度活動予定

● VLBI 懇談会シンポジウムおよび総会の実施（担当機関は今後調整）

- 例年通り、役員会にて SOC チェアを調整後、SOC/LOC を中心に進める。
- 天文台研究集会助成も申請。

● 役員会の組織および実施

- 必要に応じて WG の活動（教科書 WG、VLBI 歴史 WG など）

● 通常業務（会費徴収、名簿管理、会計管理ほか）

● メーリングリスト及び VLBI 懇談会 H.P. (<https://www2.nict.go.jp/sts/stmg/vcon/>) の管理については、引き続き NICT が担当・運用する。

● 入退会時の連絡先は事務局長 (vcon.jimu@gmail.com) とする。

3. 2025 年度の予算案

会計期間：2024 年 12 月 10 日－2025 年 12 月 31 日

収入の部

収入合計	¥859,917	備考
前年度繰越	¥637,917	
会費収入	¥222,000	正会員: 111×2,000 円（在外 15 名を除く） 学生会員: 1×1,000 円

支出の部

支出合計	¥859,917	備考（過去の実績）
2024 年度 V 懇シンポ集録作成・発送費	¥100,000	8.2 万円(2023), 8.0 万円(2022), 5.9 万円(2021)
2024 年度 V 懇シンポ経費	¥10,000	表彰の副賞代
2025 年度 V 懇シンポ経費	¥10,000	表彰の副賞代
役員会旅費・関連経費	¥10,000	役員会は Zoom 開催が定着。
繰越予定	¥729,917	

[報告事項]

4. 2024 年度の活動報告

4-1. 2024 年度 第 1 回役員会

- ・日時：2024 年 1 月 12 日（火）16:00－
- ・形式：Zoom によるオンライン会議
- ・参加者：小林, 佐野, 赤堀, 藤澤, 青山, 米倉, 中川, 三澤, 新沼, 寺家, 本田, 土居, 大木, 小山
- ・議事内容：

(ア) 国立天文台運営会議 次期台外委員候補者推薦について [小林]

VLBI 懇談会会員へ推薦者（教授職相当以上）を募った結果、4 名の会員から 4 名の推薦。役員内の賛成多数で、今井裕氏、久野成夫氏、新沼浩太郎氏、米倉覚則氏の 4 名を、国立天文台運営会議次期台外委員候補者として、VLBI 懇談会から推薦することに決まった。事務局長(佐野)から 4 名の被推薦候補者に連絡してこの旨をお伝えして了承が得られたため、小林会長から国立天文台の担当者に連絡いただいた。

(イ) 解析教材 WG の発足について [赤堀]

学生向け VLBI のデータ解析についての教材を準備する（資料 2）。役員内の賛成多数で、赤堀氏を「解析教材タスクフォース」の取りまとめ役として進めることが決まった。

(ウ) コミュニティツールについて [新沼]

VLBI 懇談会におけるコミュニティツールを求める声が、主に学生会員からあがっている。Discord の希望が多い。議論の結果、大木氏に学生会員からの意見を取りまとめてもらい、一般会員については新沼さんが意見聴取。役員からも意見などをいただくことになった。

(エ) 集録の紙版の必要性について [小林]

総会でも何度か話題になっている。次回の総会までに、継続かやめるかについて、役員で検討する必要。会費のあり方や使い道とも密接に関係している。現在は会費の大半 (10万円) を集録作成費として使用している。集録の紙版の継続有無について、メリット・デメリットなどを話し合うことで合意。

4-2. 2024 年度 第 2 回役員会

- ・ 日時：2024 年 4 月 11 日 (木) 16:00–
- ・ 形式：Zoom によるオンライン会議
- ・ 参加者：佐野, 赤堀, 藤澤, 米倉, 中川, 本田, 三澤, 土居, 小山, 岳藤, 関戸, 小川, 石垣, 小林, 青山, 寺家
- ・ 議事内容：

(ア) コミュニティーツールについて

継続案件。一般会員は新沼氏に、学生会員は大木氏にそれぞれ意見聴取を依頼。

(イ) 集録の紙版の必要性について

[紙版継続派の意見]

- ・ 視認性・利便性: 全体像を把握しやすく、必要な情報にすぐアクセスできる
- ・ PDF 版のみだと探す手間がかかる。表紙や製本された形式が重要。
- ・ 紙版があることで色々な人に渡すことができ VLBI 業界の発展にもつながる。

[紙版廃止派の意見]

- ・ 現状、印刷費用が会費の半分を占めているため、費用対効果を再検討する必要。
- ・ 少部数では単価が高くなる。
- ・ 若い研究者ほど紙版を必要としない傾向。

[中立派の意見]

- ・ 希望者のみ別料金で提供する (印刷版の希望者人数やコストの試算が必要)。
- ・ 会費をゼロにし、参加費として集録作成費を補うモデルはどうか。
- ・ 会費を取ることで帰属意識, 参加者であることの認識の向上に繋がる。

集録そのものの存続は共有認識とみえるが、紙版継続は議論が必要との内容で合意。

(ウ) VLBI 懇談会シンポジウム 2024 の SOC Chair について

村瀬建氏(岐阜大学)が SOC チェアとして推薦され、役員で投票の結果賛成多数で承認。

(エ) VLBI 懇談会役員の交代について [本田]

本田昌樹氏(国土地理院)の異動に伴い後任を石垣真史氏としたい。役員会で承認された。

(オ) 会長職の継続について [小林]

小林会長が 3 月に NAOJ を退職、7 月から上海に赴任予定であることを受けて、会長を続けるべきか審議。役員の全会一致で小林氏に会長継続を依頼。

(カ) タスクフォースについて [赤堀]

タスクフォースの意思決定は基本的にタスクフォース内で行い、必要に応じて役員会に報告する。規則は特に定めていないため、事務局判断で進行可能。

4-3. 2024 年度 第 3 回役員会

- ・ 日時：2024 年 7 月 31 日（木）09:00–
- ・ 形式：Zoom によるオンライン会議
- ・ 参加者：佐野，米倉，小林，今井，藤澤，中川，青山，石垣，小川，関戸，寺家，小山
- ・ 議事内容：

(ア) 国立天文台委員会委員の推薦

研究交流委員会，プロジェクト評価委員会，科学戦略委員会の推薦依頼。VLBI 懇談会会員から、7月28日を締め切りとして推薦者を募ったところ、2 名の方から推薦があった。

- ・ 研究交流委員会：元木業人氏，下井倉ともみ氏，佐野栄俊氏，秦和弘氏
 - ・ プロジェクト評価委員会：徂徠和夫氏，藤澤健太氏
 - ・ 科学戦略委員会：佐野栄俊氏，新沼浩太郎氏，秦和弘氏，高橋慶太郎氏，村田泰宏氏
- 全員推薦の方向で確定。事務局から被推薦者に了承を得たのち小林会長から天文台へ連絡。

(イ) VLBI 懇談会の準備状況の確認

招待講演者の選定・依頼、会場の手配（高山市民文化会館）、website 作成も進行中。

4-4. 2024 年度 第 4 回役員会

- ・ 日時：2024 年 12 月 6 日（水）12:00–13:00
- ・ 形式：Zoom によるオンライン会議
- ・ 参加者：佐野，米倉，小林，新沼，青山，石垣，小川，小山，赤堀，三澤，藤澤
- ・ 議事内容：

(1) VLBI 懇談会シンポジウムの紙版集録の出版を継続するか否か

前回の総会にて、集録そのものを廃止する議論はなく、紙版の継続が問題となった。紙版の作成にかかるコストや手間、会費の大部分が印刷費用に充てられていることが指摘され、印刷を廃止する方向が優勢だった。役員会としては、紙版集録の必要性を総会での挙手多数決により決定することを提案する。

(2) VLBI 懇談会の会費徴収をやめるか否か

会費徴収の継続に関しては、集録の印刷版を廃止する場合、会費の用途と徴収のあり方を再検討する必要があるという点ではほぼ一致。会費の主な使途である集録印刷費が不要になれば、会費を廃止する選択肢も現実的だが、旅費補助や雑費などの他の用途があるため、議論は継続が必要。また、会則の変更については慎重な手続きを要し、総会での議論を経る必要がある。具体的な結論は次回の総会での会員の意見を元に、役員会で決定する。

5. 通常業務

- メーリングリスト管理・ウェブサイト管理 (NICT に委託)
- 2023 年度 VLBI 懇談会シンポジウム@新潟大学の集録印刷・配布
- 会員名簿管理、会費徴収
- 2024 年度の入退会（2023 年 12 月 7 日–2024 年 12 月 9 日の期間）
 - 入会：5 名（うち会費無し学生：2 名）
 - 退会：2 名（うち会費無し学生：1 名）
 - 現在の会員：139 名（正会員 126 名（うち在外 15 名）、学生会員 13 名）

[審議事項]

6. VLBI 懇談会シンポジウムの集録について

● 経緯

- 前回の VLBI 懇談会シンポジウム(新潟大学)の総会にて、集録の紙版の必要性について意見が出た。
- 紙版の作成にかかるコストや手間、会費の大部分が印刷費用に充てられていることが指摘された※1。
- 総会にて挙手いただいたところ、紙版不要の意見の方が多く、役員会にて審議することになった。

※1: 集録そのものを廃止する議論はなく、紙版の継続が論点となっている

● 審議内容

[確認] 集録の継続について

集録の継続については、これまでのところ、廃止を希望する声はないと認識している。ここでの集録は、講演スライドそのものではなく、文章として書き改めたもののことをいう。集録の紙版継続の可否についての審議に移る前に、集録の廃止を強く希望される方がおられれば、まずご意見をいただきたい。

[審議] 集録の紙版について

集録の継続に対して強い反対意見がない場合、集録を (1) これまで通り紙版で継続する (2) 紙版は廃止して PDF 版のみとする、の 2 案について、皆さんに挙手いただきたい。

[今後] 会費について

集録の紙版が廃止となる場合は、会費の見直しも必要となる。その場合は、今年度の総会ではこれ以上は議論せずに、役員会に持ち帰って審議する。

以降、添付資料

資料 1

2023 年度会計報告

会計期間 2023 年 12 月 7 日 - 2024 年 12 月 9 日

収入の部

	2024 年度予算	2024 年度実績	2023 年度実績	備考
収入合計	¥824,729	¥779,803	¥762,557	
前年度繰越	¥605,729	¥605,729	¥593,552	
会費収入	¥219,000	¥174,000	¥169,000	
利息	¥0	¥74	¥5	
その他	¥0	¥0	¥0	

支出の部

	2024 年度予算	2024 年度実績	2023 年度実績	備考
支出合計	¥824,729	¥779,803	¥762,557	
前年度シンポジウム集録発行・発送	¥100,000	¥82,313	¥80,300	※1
シンポジウム経費(前年度)	¥50,000	¥49,023	¥11,188	※2
シンポジウム経費(本年度)	¥20,000	¥10,000	¥64,350	※3
役員会旅費補助	¥10,000	¥0	¥0	
雑費	¥0	¥550	¥990	※4
次年度繰越金	¥644,729	¥637,917	¥605,729	

※1 : 2023 年度 V 懇シンポ（新潟大学）集録代金

※2 : 2023 年度 V 懇シンポ（新潟大学）表彰の副賞代、賞状代など

※3 : 2024 年度 V 懇シンポ（岐阜大学）表彰の副賞代、賞状代など

※4 : 振込手数料 2 回分（440 円 + 110 円）

会計監査報告

VLBI 懇談会会計簿、および支出に伴う領収書、帳簿、現金などの資産を監査した結果、問題ないことを認めます。

2024 年 12 月 10 日
VLBI 懇談会 会計監査委員

中川亜紀治

資料 2

解析教材 WG の発足について

赤堀卓也

2024 年 1 月 12 日(金)

1. 経緯

2023 年度 VLBI 懇談会シンポジウムにおいて、VLBI 研究に携わるユーザーの拡大について議論が行われた。その中で、データ解析の難しさがユーザー拡大の障害となっているという指摘があった。これは以前から指摘されてきたことである。その対応策として、解析の教材やそれを用いたチュートリアルが有効であるとの声があった。実際、過去に数多くの解析教材が開発され、いくつか著名なものもあれば、研究室レベルあるいは個人レベルのものまである。しかしながら、それらは VLBI 懇談会として管理されているものではなく、残念ながら更新の途絶えたものや存在が不明になったもの、そもそも存在するという情報が共有されていないものもある。

私は、当会の持続的な発展のためには、新規のユーザー獲得とサポートを組織的に取り組むべきと考える。そのためには VLBI データの解析を体系的に理解することのできる教材を VLBI 懇談会として製作、あるいは監修し、有益な情報を含む媒体を組織的に管理して、未来に渡って共有することが有効であると考えに至った。

2. 提案

以上の経緯を踏まえて、VLBI 懇談会として解析教材を整備することを目的とした、作業部会(WG)の発足を VLBI 懇談会役員会の中に設置することを提案する。WG は、まず過去に開発された、教材として有効な媒体の収集作業を行い、できるだけ速やかにそれを当会会員に共有する。次に、会員からの意見も踏まえて、収集した媒体を活用しながら、体系的な教材を開発し、広く一般に公開する。WG はこれらの作業に責任を負うが、実作業においては広く会員の協力を仰ぐものとする。整備後の更新のあり方については別途役員会などで定めることとし、本 WG は解析教材の公開をもって一旦解散する。

3. スケジュール

2024 年 1 月	解析教材 WG の発足についての役員会承認
2024 年 3 月末	解析教材 WG のメンバーの決定および WG の発足
2024 年 4-6 月	解析教材の収集の開始（内容精査は最低限に留める）
2024 年 6 月末	収集した教材の限定公開（VLBI 懇談会内部限定）
2024 年 7-11 月	収集した教材を踏まえ、教材のあり方(例：章立てや内容)を検討
2024 年 12 月	VLBI 懇談会シンポジウムでの意見聴取とあり方への反映
2025 年 1-5 月	教材の開発
2025 年 6 月頃	中間報告
2025 年 11 月	最終報告
2025 年 12 月	VLBI 懇談会シンポジウムでお披露目、保守の事務引き継ぎ、WG 解散

以上